

# 源流の四季

創刊号2001 春



Spring

発行所/多摩川源流研究所 山梨県北都留郡小菅村4383

TEL・FAX (0428) 87-7055

発行責任者/中村文明

協力/多摩川源流観察会

印刷/(株)サンニチ印刷



マンガの滝(塩山市ノ瀬川)

## Contents 目次

多摩川源流の四季.....	2・3
多摩川源流研究所の設立の経緯と目的.....	4・5
源流へのメッセージ.....	6・7
多摩川源流温泉めぐり.....	8



# 多摩川源流の四季

豊かな森と急峻な渓谷に覆われた多摩川源流は、四季折々美しい光景を見せてくれる。源流一帯は、日原川、後山川、丹波川、一ノ瀬川、柳沢川、泉水谷、小菅川の七つのゾーンから成る。今年、東京都水源林は経営開始百周年を迎える。



ヤマキラン



レンゲシロウマ



ネタフリ



ネタトルブクロ



キツリフネ



ヤマオダマキ



大栗茂谷 (丹波山村泉水谷)



惣兵衛谷 (奥多摩町)

新世紀の春は、山肌を埋め尽くす残雪とともに訪れた。春を待ちかねたように、木々が一斉に芽吹く。逆光のなかでキラキラ輝く新緑は、眩しいほどの躍動感に溢れている。

## 春

この季節、渓谷にはさわやかな風が駆け抜ける。大菩薩、雲取山、三窪高原には、ヤナギラン、ツリガネニンジン、ヤマオダマキ、テガタチドリなどの山野草が咲き誇る。

## 百夏





摩水谷



丹波深谷

落葉紅葉樹が命の限りを表現する  
 溪谷の紅葉は、  
 喻えようがないほどの  
 輝やかな色彩を見せてくれる。  
 錦織(きんしゅう)の  
 はんの一瞬を求める旅は永遠に続く。

# 秋



妙見五段の滝(小龍川)



一ノ瀬川(嵐山町)

◎3 ◎ 最盛の四季

落葉の季節を過ぎると雪が舞い、  
 溪谷に氷が張りつめる。  
 氷点下のなか、氷たちは、  
 思い思いの芸術品を創作する。  
 この季節、不思議と谷間は明るい光に満ちている。

# 冬



高城宮



小龍川源流



# 多摩川源流研究所を設立!

小菅村は、平成12年9月27日、記者会見で「多摩川源流研究所」を設立することを発表し、研究所設立準備室(室長・中村文明)とプロジェクト委員会を発足させました。同プロジェクト委員会は四回の委員会を開催して、12月21日、廣瀬文夫村長に答申しました。答申の要旨を紹介します。

## 一、源流研究所設立の目的

地球温暖化防止など環境問題と環境教育は、21世紀の重要な課題である。多摩川源流域は、明治34年(1901年)以来、東京都の水源地養林として、100年間大切に維持・管理されてきたお蔭で、手つかずの自然が広範囲に残されている。源流研究所はその豊かな自然的・歴史的・文化的・経済的資源に着目し、分野毎に調査研究しデータの蓄積を図り、その成果を発信して、多摩川流域の住民や全国の源流域との交流を進めながら、源流域の自然環境の保全と自然環境に調和した源流の里づくりに資するものである。

## 二、源流研究所の位置づけと役割について

### 源流と流域の共同と協調

源流研究所は、塩山市、奥多摩町、丹波山村、小菅村を含む多摩川源流全体を調査研究の対象として発足する。多摩川は、



廣瀬村長(右)と中村室長(9月27日)

首都圏の水資源として江戸の昔から重要な役割を果たしてきたが、その源流域はかけがえのない豊かな自然に溢れ、動植物など多様な資源にも恵まれた自然の宝庫である。研究所の使命と役割は、様々な資源の調査研究

と情報の発信を通して源流全体へ新しい光を注ぐことにある。源流の4つの市町村の共同と協調、さらに源流と流域の共同歩調の進展にこの事業の成否がかかっている。

### 水を生み出す源流は流域の宝である

いま全国的に源流は急激な過疎と高齢化、少子化の荒波にさらされている。このまま推移すれば源流域の村や町の存立が脅かされ危うくなりかねない。いっうまでもなく流域全体が良くなつてこそ自然や川は守られる。流域の中で源流は最も大切な位置にある。水を生み出す源流は流域の宝であり命である。源流を良くすることは、とりもなおさず流域全体を良くすることを意味する。こうした高い理想を掲げ、源流の現実と苦難を広範な流域の市民に周知することで、源流の再生・復興への確実な第一歩をしるしたい。

### 源流に新しい価値を見いだそう

新しい世紀には新しい価値が生まれる。経済優先から人間尊重の社会へ、さらに大量消費から水続可能な循環型社会への大転換は21世紀の直面する重要な課題である。モノの豊かさから

心の豊かさを求める時代へと人間の生活の価値観は確実に変化するであろう。

21世紀は、水や緑、環境や教育に新しい価値と可能性を求める時代となる。人間は日常生活の中に憩いや余暇、ゆとりをとり入れ、山や森、川などの自然と素朴な人々との交わりを通じて、本来の人間らしさを回復する自発的行動を活性化するであろう。誰でも、源流の爽やかか風や清らかな流れの中に身をまかせ、ひとりでに疲れが癒され新鮮な気分と研ぎ澄まされた感性を取り戻し、明日への糧を得ることが出来る。源流の美しい自然と素朴な人間性にかけての新しい価値を見いだす時代が必ず到来する。社会の高度化、報化が進展すればするほど、自然と人との心の通った触れ合いがますます大切になるだろう。

### 全国の源流ネットワークの拠点

新しい世紀の初頭に、源流、流域との壮大な、しかも友好的な交流事業を展開していきたい源流域には、恵まれた自然と豊かな環境があり、流域には、豊かな自然的・経済的資源がある多摩川は全国で最も流域の市民から愛され利用されている確かな実績がある。多摩川が水干

# 源流の魅力・価値・可能性

ら河口まで一筋の流れで結ばれているように、我々も「多摩川とその源流を愛する」一点で固く結ばれた新しい関係を作り上げ、相互理解に基づく活発な交流を本格的に開始したい。

いま、全国各地の源流が同じ悩みや不安を抱えている。過疎化に立ち向かう新たな模索にどんな困難が待ちかまえていようとも、歩みだしてこそ道は開け

る。流域全体の知恵と力と情熱を結集して、研究の拠点、情報発信の拠点、体験と交流の拠点、全国の源流のネットワークの拠点をここに築き、全国に模範と実績を示していきたい。そして、

## 三、源流研究所の事業内容について

この源流域で、お年寄りから子供まで誰もが、明日の幸せと未来を信じて明るく生き生きとした源流の生活が謳歌できるそんなまちづくりを目指していきたい。

## 多摩川源流研究所の設立にあたって



山梨県小菅村長  
廣瀬 文夫

多摩川源流研究所の設立にあたりましては、村内の方々の献身的な指導とご支援をいただき、設立の運びとなりましたことを心より感謝申し上げます。

小菅村では、昭和62年から「多摩川源流まつり」を開催し、多摩川の源流をコンセプトに村づくりを進めてまいりました。昨年4月には「源流のむらづくりの計画」すなわち第3次総合計画をスター

トし、さらに源流にこだわったむらづくりを進めようと模索していた折、研究所の所長にお迎えする中村文明氏と運命的な出会いがありました。昨年9月に設置した設立準備プロジェクト委員会では、委員の皆様が精力的な審議により、源流研究所の役割や事業内容等について具体的な方向を示していただきました。

社会の高度化と情報化が進展すればするほど、自然と人との心の触れ合いがますます大切になってまいります。21世紀は、水や緑、環境や教育に新たな価値と可能性を見出す時代であり、源流の美しい自然と素朴な人間性がかけがえ

のない価値となる時が必ず到来するものと確信しております。

しかし、申すまでもなく全国の源流域と名のつく市町村は、過疎化や少子化、高齢化に悩んでいます。この多摩川源流研究所の取り組みで、自然や歴史等の調査・研究が進み、自然環境の保全と情報の発信が図られ、多摩川の中下流域の皆様との交流が益々盛んになり、また、全国の源流域との交流も図れることを願っています。

源流研究所の諸事業により、多摩川の源流域に光があたることを切望し、流域の皆様をはじめとする関係者及び関係機関の更なるご指導とご支援をお願い申し上げます。多摩川源流研究所の設立にあたっての挨拶といたします。

### 一、資源の調査・研究と源流学の構築へ

源流の恵まれた自然環境を水久に保存する活動に取り組んでいくことを前提に、第一に、「水と緑」をキーワードに、源流の自然的資源、歴史的文化的資源、経済的資源の徹底した調査・研究を進めることである。源流は植物や生き物も豊富で、水も澄みきっており、源流全体がフィールドミュージアムである。広い視野から調査・研究し様々な分野と交流して「源流学」と呼ぶにふさわしい学問の構築をめざしていく。

### 三、「源流体験教室」の創設を

第三に子どもや大人を対象に源流体験教室を創設する。源流体験を通して、生きる希望と勇氣に出会い、自然をこよなく愛する人間を育てていくことを基本にする。自然に直接触れてその素晴らしさを知ってこそ自然に親しみを覚え、自然に愛着と誇りを育むことができる。源流は、人間にとって原体験の場であり、原風景であり、人間生活の原点を実感できる貴重な場である。

### 二、「源流の四季」、インターネットなどによる情報の発信を

第二に源流に関するあらゆる情報を流域に発信し、多くの市民が源流に関心を持ち注目し、源流ファンになるまで系統的に取り組んでいく。その重要な手段として、関係市町村の協力を得て研究所の会報「源流の四季」を年4回発行する。

### 四、流域・全国との多彩な交流を

第四に源流と流域との交流活動を積極的に展開する。交流の基本は、「人と人との結びつき」にある。源流の自然体験や住民との語り合いに満足すれば、何となく足を向けてくれるようになるだろう。具体的な交流事業は、世代間交流や分野別交流、目的別交流など様々な分野で展開が可能である。

## 四、源流研究所の運営について

源流研究所の運営は、市民・企業・行政・学識経験者の4者が構成する運営委員会がこれに

当たる。また、広く各界の意見や要望を聞くため、研究所懇談会を設置する。



# 源流へのメッセージ

多摩川源流研究所は、多摩川にかかわる多くの関係者の協力と支援に支えられて設立されました。ご存知のように、多摩川流域には、425万人の住民が生活し、年間2,000万人の市民が、多摩川とかかわっています。多摩川研究所の設立に際し、各界の方々から寄せられた源流へのメッセージを紹介します。

## 期待される多摩川源流文化



東京農業大学  
教授  
宮林 茂幸

多摩川源流研究所が関係市町村の協力を得て、小菅村に設立されたことを心からお慶び申し上げます。次第である。

21世紀の幕開けに際して、20世紀を振りかえると、急速な科学技術の発展とともに、目覚ましい資本主義の発達があった。それは経済効率至上主義による大量生産、大量消費、大量廃棄の社会システムを創造するものであった。このことよって、かつての物不足や低所得、生活の不便による貧困な国民生活は、物が飽和し、所得が向上するとともに、車社会や電気製品による近代的な生活環境へと大きく改善された。しかしその一方で、都市への「過密」と農山村での「過疎」という不均衡な問題を、大量生産・消費・廃棄による生活環境の悪化などの環境問題を引き起こすこととなった。

20世紀は、経済と効率を求めて大量の人工物をつくり出したが、その反面、日本の伝統的な景観、衣食住などの生活文化、さらには自然と人間の作りだした歴史などを大きく失いかけた。特に、そうした文化を継承発展してきた流域域において、生産構造の脆弱な農業は、経済のグローバル化・インフラの中で、ますます国際競争力に跳ね除けられ、その存続の危機にたたき込まれている。

21世紀は生活の「質」を追求する価値観となるだろう。豊かで、安全で、ゆとりと生きがいのある生活環境こそが21世紀が求める社会であり、そうした社会を次世代にどのように継承するかが環境問題の一つといえる。それは豊かな自然環境の中で、循環型の暮らしや営みなど様々な体験学習をとおして、培われ、養われ、継がれていくものといえる。

こうした意味からすると源流域の自然や文化は、21世紀の財産であり、多くの教育力を有している。その財産を継承・発展させてこそ循環型の未来社会が創造されるものといえる。多摩川源流研究所の使命は極めて大きく、期待されること大である。

「源流」という言葉には、何やら未知なもの、エネルギーに溢れた所といった強い印象を受ける。確かに私のように川の中・下流に住んでいる身からすれば、川の「ミナモト」というと、前人未踏の山奥と思ってしまう。かつて多摩川の源流の山や沢の地名を地図で眺めている時、不思議な地名の多いことに気づいた。やがて、それがアイヌ語ではないのか？人が住めるはずもないと先入していた思いに反し、極めて濃厚な生活が源流を舞台に営まれてきた、という事を知った時浅学を恥じた。その思いはやがて源流を訪れるたびに強くなるのだが、今や水源としての役割だけではなく、私達の生活文化の源流としての役割を強く感じるようになった。多摩川の源流は、自然もそしてその自然と共存してきた生活文化に溢れた豊かな土地に他ならない。



全国水環境交流センター  
NPO法人多摩川  
事務局長  
山道 宣二

## 多摩川源流からメッセージを！

「源流」という言葉には、何やら未知なもの、エネルギーに溢れた

た所といった強い印象を受ける。確かに私のように川の中・下流に住んでいる身からすれば、川の「ミナモト」というと、前人未踏の山奥と思ってしまう。かつて多摩川の源流の山や沢の地名を地図で眺めている時、不思議な地名の多いことに気づいた。やがて、それがアイヌ語ではないのか？人が住めるはずもないと先入していた思いに反し、極めて濃厚な生活が源流を舞台に営まれてきた、という事を知った時浅学を恥じた。その思いはやがて源流を訪れるたびに強くなるのだが、今や水源としての役割だけではなく、私達の生活文化の源流としての役割を強く感じるようになった。多摩川の源流は、自然もそしてその自然と共存してきた生活文化に溢れた豊かな土地に他ならない。

全国の川や水の環境保全や改善活動をしている人たちが触れ合っているところ、このところ、海の漁師さんたちが山に木を植える活動を精力的に展開している。豊かな海を守るためには、多様な森林を植える必要がある。山は海の恋人とさえ言っておられる。考えてみると、海のみならず農業も都市も源流の恩恵を受けて成り立っているわけだ、ごく当たり前のことであるのに、私達の生活はその事に気が付かないままにある。

「多摩川源流研究所」とは、たいそうな名称であるが、源流の役割に気づき、その流域に住む私達が何を成すべきかを考える上で、気引き締まる名称と思う。源流はさまざまな宝の山であり源泉である。そのことをきちんと掌握し、私たちが忘れた自然とつきあうためのメッセージを出していくことから始めたらどうだろうか。そして、流域に住む人たちも謙虚にそのメッセージを受けとめてみたらどうだろうか。日々の生活で思い煩う事々の処方箋が、源流の山はだや沢に、そして細流沿いの暮らしに無数に散りばめられていると思うからである。

## 21世紀へのあらたな胎動



多摩川と語る会  
代表  
田中 喜美子

多摩川源流研究所設立おめでとうございます。

源流域の皆様がこの研究所に対するひたむきな熱意に21世紀への新たな胎動を感じます。水干の岩間から滴り落ちる源流の一滴を口にしたとき、私は体の中を多摩川が流れるのを感じました。この衝撃的な多摩川との出会いからもう数年、その間何度源流を訪ねたことでしょうか。早春、長い冬の厳しさに耐えてきた木々が一斉に芽吹き始めます。





源流を訪ねる会  
代表 三谷 益巳

### 母なる多摩川を 次世代へ

その木の芽の一つ一つの色が全部ちがうのです。昇りはじめた朝日をまぶしそうに受けるその木々の芽に命の色を見ました。人もみな、こんなに美しい命の色をそれぞれ持って生まれて来るにちがいないと思いました。

晩秋、からまつのは昔もなぐ降って来る黄金の雨がありました。落華を踏んで登る源流への道はまことに心地よく、耳を澄ますとかさこそと枯葉のささやきが聞こえて来ます。

見上げると真青な空にうす紅色の衣を聞く「まゆみ」の実、その初々しさに思わず立ち止まってしまいました。

源流には、盡きることのない命の泉があるのです。

この度の源流研究所の創設に伴い、流域の市民がこの美しい源流の自然と、源流域に住みその自然を守ってきた人との交流ができることをほんとうに嬉しく思います。

源流、上流、中流、下流のその交流の中から源流の自然や文化が守られ、育てられ、かけがえのない自然遺産として、次世代に引き継がれていくことを切に願っています。

社会の変化の中にあっても変わらざるものがある。それは、直接自然に触れ、その美しさを厳しさを白らの体を通して知ることである。こうしたなか、多摩川の源流に、交流と研究の拠点である源流研究所が設立されることを、心から喜びたい。

多摩川の自然環境の中に住まい、憩う私達は、多摩川の自然に注目し、多摩川そのものを徹底的に掘り下げてみたく、13年前から多摩川沿いの下流・中流・上流域を歩き、自然観察を行い、少しずつ今まで知り得なかつた多摩川の自然・歴史・文化・コミュニティ等を学んできた。さらに私達は、手足を使って多摩川の源流を訪れることにより、この川の全体像を知ることとなった。

多摩川の源流である笠取山(嵐山市)水干神社を最初に訪ねたのは昭和63年11月であった。世田谷区民を中心に20名による「第一回多摩川の源流を訪ねる会」を組織し笠取山の中腹に位置する嵐山市の一之瀬高原民宿村に宿泊した。

ここで新たに知ったことだが、都民の飲み水を賄うための水源林は、山梨県嵐山市・丹波山村・小菅村に及び13,844ヘクタールの山林が都有地となっている。東京都民の飲み水の20%余りを賄う多摩川は、山梨県内の水源林に負うところが非常に大きい。

従って、都民にとっても多摩川の源流域の存在を真剣に考える時

期ではないだろうか。源流域の人々と中流域の私達が市民レベルでの交流を深めることにより、も源流部に住まう人々の中ににわだかまりがあるのならば、それを薄め、そして相互に理解し合うことは、共通の財産として多摩川を大切にすることも結びつくことであらう。

地元の方々とうまい酒を酌みかわした翌日私達は、早朝に村を出発、往復5時間の行程で笠取山の水干神社を訪れた。岩の間からしたたる一滴の水に感動し歓声を上げた。そして、あの雄大な多摩川に想いをほせるひと時を過ごした。

昭和63年に開催されて以来「多摩川の源流を訪ねる会」は、最近では右岸の川崎市民も含め約50名の流域住民が参加するイベントに成長してきた。第15回目が平成12年11月に開催されたが、この間建設費の絶大な支援があったことが待望される。

多摩川沿いに住まう多くの人々が真の多摩川を知り、人の手によって、人の輪によって、クリンとな多摩川を復活させる先駆けになればとの主旨により「多摩川の源流を訪ねる会」が今後共、流域の市民レベルで開催されていくことであろう。21世紀には更なる美しい母なる多摩川を次の世代へ手渡していきたいとも考えている。



水みち研究会  
代表 水素デザイン  
研究室 三谷 博

### 源流はスモールイズ ビュートイフル

多摩川源流研究所がいよいよ設立されることとなり、大いに期待しています。源流域には様々な役割が求められていますが、研究所に多くの人々が様々な情報を持ち寄り、源流の価値を確かめつつ、新たな価値を創り出してゆけるといいですね。

昨年の11月にドイツの方を小菅村にご案内する機会がありました。その時にもあらためてこの流域の良さを感じました。東京の近くで日本の自然を満喫し、温泉でゆつくりできるくつろげる場所という希望で、伊豆箱根が秩父多摩かどちらにしようかと聞かれたのです。

それぞれの良いところ、悪いところを知らせた結果、彼が選んだのは秩父多摩でした。伊豆箱根は日本の代表的な観光地の一つですが、それとは違う価値を選び、小菅の日本旅館に1泊し、山を歩き、村の生活を学んでとても喜んで帰りました。

彼はエコロジストの建築家で、禁欲的なライフスタイルを持っていて、ドイツに限らず北欧など

でもエコビレッジが各地にできています。近代的な驕慢なライフスタイルを本気で見直し、転換しなればいけないのは日本も同じです。そうしてみると源流域の村々はなんと豊かな可能性を持っていることかと気づかされます。

そういえばドイツで一番といわれる大工さんを訪ねて行った時のこと、山深い小さな村にたどり着き、こんなところにと訝りながらありふれた農家の戸を開けたとたん、驚くほどの豊かな文化としかいいようのない生活ぶりど人柄に圧倒されたことを思い出します。まず小さい小さな村に見えたのは、自分の心の貧しさだったのです。

源流の村々が目指すものは伊豆箱根ではないことは私が言うまでもないことかと思えます。小さく、美しく、精神的に豊かな村。であるならば、すでに半分以上できているのかもしれない。残り半分の知恵の出し方に研究所が役立てばと思います。

多摩川の源流域は、水をつくるという意味で東京にとつての聖域であり、今後も聖域であり続ける必要があります。また源流は、流域の人々にとつて精神的にも拠りどころとなる場所です。スモールイズビュートイフルを実践すれば、悩める現代人の聖地となることでしょう。

## Genryu Information

# 源流温泉めぐり

多摩川源流は、豊かな自然に恵まれています。秩父多摩甲斐国立公園の山々を歩いたり、清らかな川でつりを楽しんだりと自然との楽しいコミュニケーションが図れます。合わせて、源流域の市町村の特色ある温泉をめぐる旅が今注目をあつめています。友達と又は、家族で源流温泉めぐりは、いかがですか。



### 奥多摩温泉もえぎの湯

(奥多摩町永川119-1)

奥多摩駅から徒歩10分と近く、泉質はフッ素。露天風呂からは多摩川の渓谷美を楽しむことができる。ハイキングルートが近いこともあり、多くのハイカーが訪れる。

- ◎電話 / 0428(82)7770
- ◎料金 / 700円(2時間)
- ◎定休日 / 月曜日
- ◎営業時間 / 10時～20時(3月～11月)  
10時～18時(12月～2月)



### 丹波山温泉のめこい湯

(丹波山村778-1)

のめこいとは「つるつる・すべすべ」を意味する方言から由来している。和風風呂とローマ風呂の2種類が1週ごとに入れ替わる。硫黄泉質。

- ◎電話 / 0428(88)0026
- ◎料金 / 600円(3時間)
- ◎定休日 / 木曜日
- ◎営業時間 / 10時～20時(4月～10月)  
10時～18時(11月～3月)



### 多摩源流小菅の湯

(小菅村3445)

サウナ・打たせ湯・寝湯・ハーブのジャグジーなど6つのお風呂が楽しめる。肌がつやつやすることから「美人の湯」として親しまれているアルカリ泉質。

- ◎電話 / 0428(87)0888
- ◎料金 / 900円(3時間)  
(浴衣・バスタオル付)
- ◎定休日 / 水曜日
- ◎営業時間 / 10時～19時(5月～10月)  
10時～18時(11月～4月)



### 大菩薩の湯

(塩山市小田原730-1)

江戸時代の閨所を再現した門構えが特徴。広い風呂からは甲府盆地が一望できる。大菩薩の登山を終えた身体を癒すいい湯である。アルカリ泉質。

- ◎電話 / 0553(32)4126
- ◎料金 / 600円(3時間)
- ◎定休日 / 火曜日
- ◎営業時間 / 10時～20時

## 源流歳時記

### ◎塩山市

- 5月20日(日) 大菩薩を歩く会(大菩薩峠)
  - 6月17日(日) 三窪高原ツツジ祭り(三窪高原)
  - 8月19日(日) 大菩薩峠登山競走大会(大菩薩峠)
- ◎お問い合わせ先  
塩山市役所庶務課 ☎0553(32)2111

### ◎奥多摩町

- 4月20日(金)・24日(火)・26日(木) カタクリの咲く 御前山登山(御前山)
  - 4月29日(祝) 第12回森林浴ヘルシーウォーク (奥多摩むかし道)
  - 5月3日(祝) 5日(祝) 山をる春まつり(山のふもと村)
  - 5月6日(日) 奥多摩カヌーフェスティバル・カヌー教室
- ◎お問い合わせ先  
奥多摩町役場観光課 ☎0428(83)2112

### ◎丹波山村

- 7月中旬 / ささら獅子舞(丹波山村の各神社)
  - 7月28日(土) / 夏まつり丹波
- ◎お問い合わせ先  
丹波山村役場観光課 ☎0428(88)0211

### ◎小菅村

- 5月3日(祝) 長作観音様縁日(長作観音堂)
  - 5月4日(祝) 第15回多摩源流まつり(小菅村内全域)
  - 5月5日(祝) 小永田浅間神社祭典(浅間神社)
- ◎お問い合わせ先  
小菅村役場観光課 ☎0428(87)0111